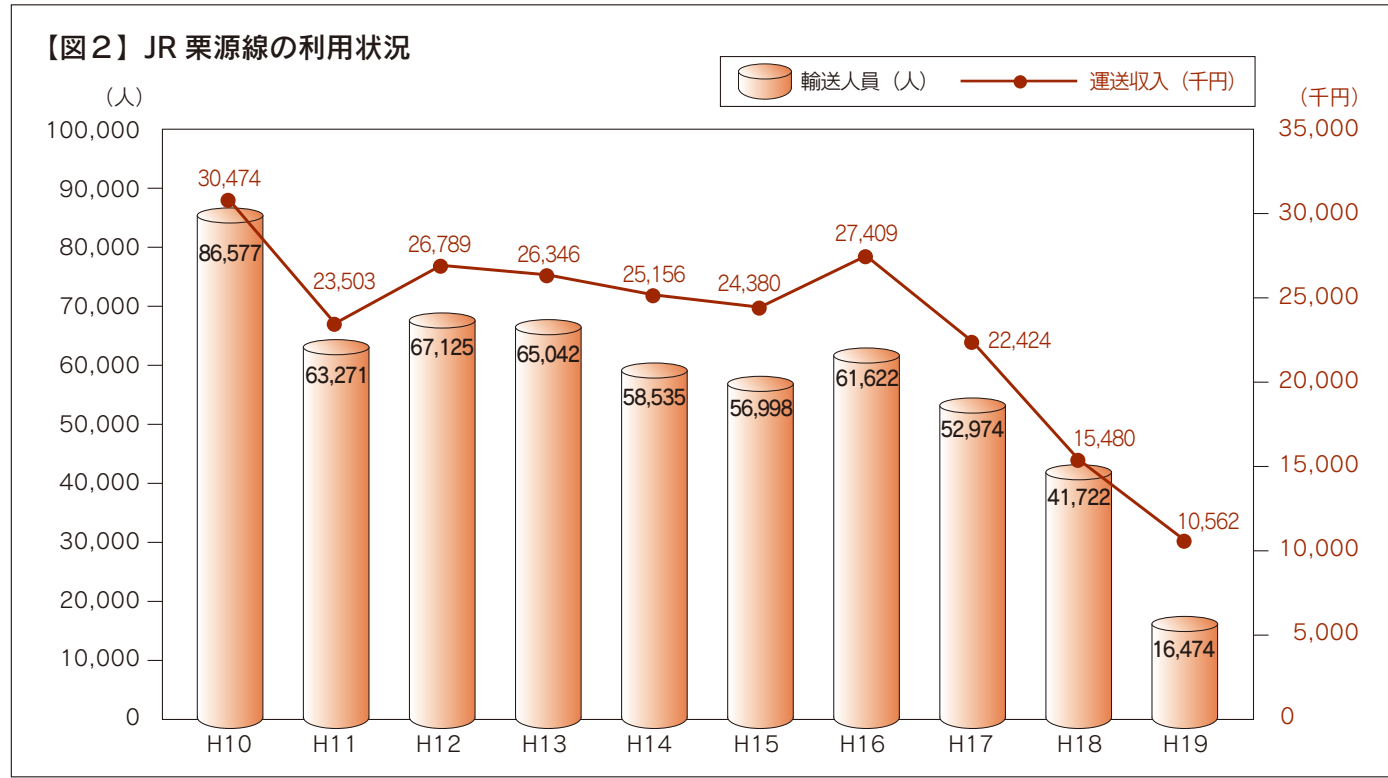




路線バスは、通勤、通学、通院など私たちの暮らしを支える生活路線として重要な役割を果たしてきました。しかし、国の補助制度の縮小や利用者の減少など大変厳しい状況が続いています。鉄道のない本町にとって、欠くことのできない公共交通機関である「路線バス」の現状と今後について考えてみましょう。



地域の足 路線バスがピンチです！

減り続ける
路線バス利用者

本町では、現在ジェイアールバス関東(株)(以下、JR)が2路線、千葉交通(株)(以下、千葉交通)が4路線を運行しています【図1】。しかし、家用車の普及や人口の減少などにより、利用者は年々減り続け、特に平成19年度におけるJR栗源線の利用者(輸送人員)は、10年前と比較して約19%にまで減少しています【図2】。

すべての路線が
補助金で運行

JRが運行する2路線は、町民の生活に欠かせない路線として、これまで国、県、町の補助を受けて運行されてきました。しかし、このうち栗源線は、利用者が極端に少ないことから、平成19年度は補

積極的に利用して
路線確保を

19年度まで、毎年約900万円の補助金を支出してきました。平成20年度から廃止代替バス路線となった千代田線を含め、今後もこれらすべての路線を維持していくためには、年間1千万円以上の支出が必要となる見込みです。これは町の財政にも大きな負担となり、永続的に補助することには限界があります。

路線バスの利用者は年々減っていますが、家用車を持たない高齢者や学生などの利用が多く、町民にとって重要な交通手段となっています。バス事業者においても業務の合理化などを行い、路線維持のため努力していますが、このまま利用者が減り続けると、最悪の場合、路線が廃止されることも予想されます。

路線確保のためには、地域の皆さんが積極的に路線バスを利用することが必要です。より多くの方の利用が路線確保につながるのです。

【図3】平成19年度 JRバス路線

路線名	運行系統			キロ程(km)	運行回数(回)※2	平均乗車人数(人)※3	補助金額(千円)	補助主体	うち町負担額(千円)
	起点	主な経由地	終点						
多古本線	八日市場駅	多古本町	成田	34.0	7.6	13.3	6,899	国・県	0
栗源線※1	多古	栗源仲町	佐原	22.6	4.0	5.6	—	—	—

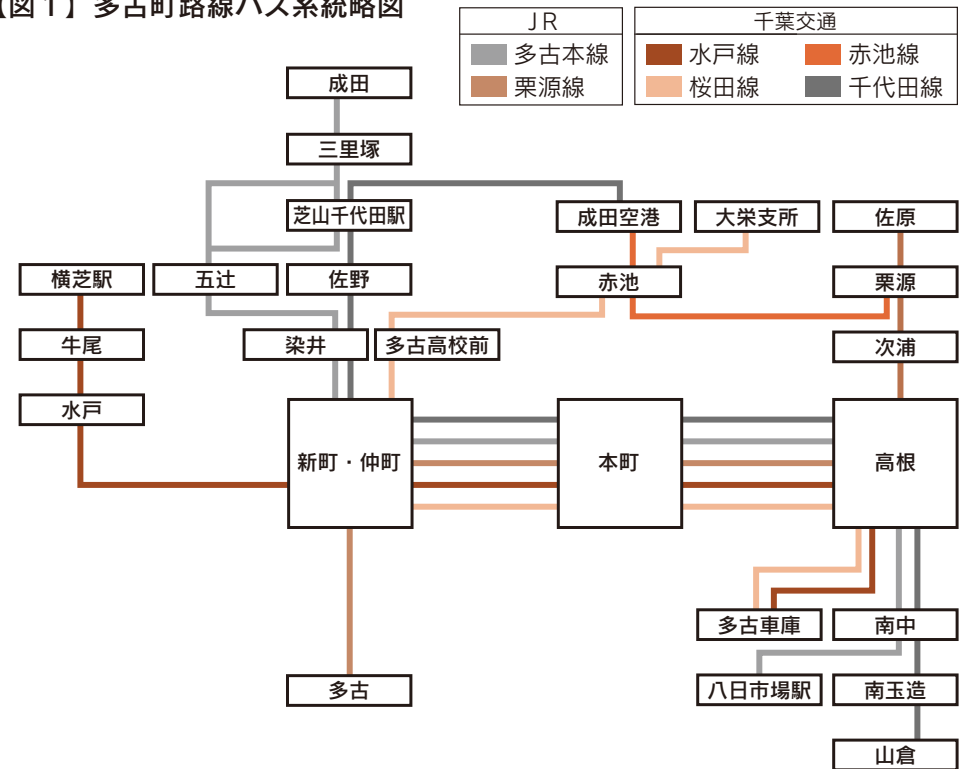
※1 栗源線は平成19年度から補助対象外
 ※2 運行回数=1日当たりの往復運行回数
 ※3 平均乗車人数=1日当たりの輸送人員÷片道運行回数(運行回数×2)

【図4】平成19年度 千葉交通バス路線(廃止代替バス路線)

路線名	運行系統			キロ程(km)	運行回数(回)※2	平均乗車人数(人)※3	補助金額(千円)	補助主体	うち町負担額(千円)
	起点	主な経由地	終点						
水戸線	多古車庫	水戸	横芝駅	往 13.50 復 13.80	4.0	2.2	6,482	町	3,870
桜田線	大栄支所	桜田	多古車庫	往 20.65 復 21.05	5.0	3.3	7,853	町	4,124
赤池線	成田空港	赤池	栗源	往 18.67 復 16.94	5.0	3.1	6,808	町	939
千代田線※1	山倉	本町	成田空港	往 23.75 復 21.74	7.0	6.2	—	—	—

※1 千代田線は平成20年度から廃止代替バス路線へ移行
 ※2 運行回数=1日当たりの往復運行回数
 ※3 平均乗車人数=1日当たりの輸送人員÷片道運行回数(運行回数×2)

【図1】多古町路線バス系統略図



助を受けることができず、今後、路線廃止の恐れが出てきました【図3】。

一方、千葉交通が運行する4路線は、すべて大幅な赤字により一度は廃止された路線です。しかし、関係する市町が協調して赤字分を補助する

契約を結び、同社に依頼して運行が続けられているのです。これを「廃止代替バス路線」といいます(千代田線については、平成20年度から廃止代替バス路線へ移行)【図4】。

本町では、この廃止代替バス路線を維持するため、平成